バインナウン王（在位 1551－81 年）

バガン王朝がモンゴル軍に滅ぼされたあとの混乱を鎮めたバインナウン王は、中部乾燥地帯の覇者となり、タウングー王朝（第二ビルマ帝国）を起こした。腕組みをして見るからに精悍な武人像は、後ろに重心をかけ、前を睨み付けている。その姿勢と顔つきと服装が、「王様と私」でユル・ブリンナーが演じたシャム国王を思い起こさせる。私のスケッチも、ついつい劇画調になってしまった。

だが現在のタイ、ラオスにまで及んだ彼の膨張政策が、帝国の崩壊を早める原因となった。タウングーの町にも彼の銅像があるが、国立博物館のこの作の方が性格をよく表していると、私は思う。

アラウンパヤー王（在位 1752－60 年）

コンバウン朝（第三ビルマ帝国）の基礎を作ったアラウンパヤー王は、複雑な顔をしている。細身で一見柔和な姿は、武人と言うよりは老練な政治家のようだ。王者の象徴であるダイアモンド形の短剣を右手に持ち、その切っ先を左手でいじりながら、次はだれをどう攻めようかと思案しているようだ。外交と戦争をたくみに組み合わせる食わせ者。ときにはユーモアで人をたぶらかす術も知っていたのだろう。油断ならぬトリックスターを思わせる。だが、ヤンゴンの町を開いたこの男が、やわであったはずがない。